

2024年2月1日
株式会社 ispace

ispace、mu Space 社と将来的な月周回ミッションに向け覚書を締結

株式会社 ispace(東京都中央区、代表取締役:袴田武史、以下 ispace)は、衛星開発及び衛星通信サービスを展開するタイ王国の mu Space and Advance Technology 社(以下 mu Space 社)との間で、ペイロード輸送サービスおよび戦略的協力に関する 2 つの覚書を締結しましたことをお知らせいたします。

この協力関係は、両社が将来的な月ミッションを共同で推進し、東南アジア地域において増加する、月へのミッションを検討する様々な顧客の開拓や、顧客へのサービス提供を加速させるための第一歩となります。

今回の覚書の締結により、月周回へ衛星を輸送したい事業者に対し ispace が月周回への輸送サービスを提供し、mu Space 社が衛星部品を供給することで、共にシスルナ(cislunar: 地球と月の間)衛星市場を開拓することを目指します。さらに両社は、小型衛星最大 100kg のペイロード輸送を含め、当社のランダーを用いた月周回衛星ミッションの数を加速させるために、日本とタイにおいてともに市場開拓を行う予定です。

東京に本社を置く ispace は、2022 年 12 月に世界で初めて民間として月着陸船(ランダー)の打ち上げに成功した月面輸送サービスプロバイダーであり、2024 年、2026 年、2027 年に引き続き月面着陸ミッションを予定しています。タイ・バンコクに本社を置く mu Space 社は、2018 年から 2020 年にかけて 4 回のサブオービタルミッションを成功させた東南アジアの大手航空宇宙メーカーであり、衛星通信サービスプロバイダーです。現在、2024 年以降に予定されている顧客のミッションにおいて衛星と衛星部品を提供する予定です。

■ 株式会社 ispace 代表取締役 CEO & Founder 袴田 武史 コメント

「小型衛星により機動力高く、月周回で様々な技術検証や科学探査を行うことは、将来人類が月面に滞在するにあたり非常に意義のある活動になります。本協力関係は、月周回衛星ミッションに関する東南アジアおよび世界の新市場を開拓するものであり、シスルナ経済構築の礎ともなるため、大変喜ばしく思っています。ispace のビジョンである "Expand our Planet. Expand our Future." の実現に向けた新たな一歩です。」

■ mu Space and Advance Technology社 CEO 兼 CTO James Yenbamroong コメント

「ispace との覚書締結の発表ができることを嬉しく思います。本覚書は、2028 年までに月面でのプレゼンスを示すという我々のビジョンと決意を表し、当社にとって初めての月面ミッションとなります。ispace との協力により我々のキーテクノロジーを実証し、将来の月面探査に向けた基盤を築くことができます。また、この覚書は、アジアの宇宙技術の向上の証ともなります。」

ispace は、高まる世界中の政府機関、民間企業、教育機関からの需要に応えるため、日本、米国、ルクセンブルク世界 3 拠点の事業体によるグローバル・プレゼンスを持つ強みを活かし、複数の月ミッションの同時開発に取り組んでいます。2024 年冬に打ち上げが予定されているミッション 2 では、日本の本社が主導した RESILIENCE ランダーを使用し、欧州子会社が製造したマイクロローバー(小型月面探査車)を含む商業ペイロードを月面に輸送する予定です。ミッション 2 と並行し、米国子会社ではミッション 3 に向けて APEX1.0 ランダーが 2026 年の打ち上げに向けて開発されています。ミッション 3 以降のペイロードサービス契約とデータサービスについては現在、世界中の顧客と交渉段階にあります。

■ 株式会社 ispace (<https://ispace-inc.com/jpn/>)について

「Expand our planet. Expand our future. ~人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界へ~」をビジョンに掲げ、月面資源開発に取り組んでいる宇宙スタートアップ企業。日本、ルクセンブルク、アメリカの3拠点で活動し、現在250名以上のスタッフが在籍。2010年に設立し、Google Lunar XPRIZEレースの最終選考に残った5チームのうちの1チームである「HAKUTO」を運営した。月への高頻度かつ低コストの輸送サービスを提供することを目的とした小型のランダー(月着陸船)と、月探査用のローバー(月面探査車)を開発。民間企業が月でビジネスを行うためのゲートウェイとなることを目指し、月市場への参入をサポートするための月データビジネスコンセプトの立ち上げも行う。2022年12月11日にはSpaceXのFalcon 9を使用し、同社初となるミッション1のランダーの打ち上げを完了。続く2024年冬ⁱにミッション2の打ち上げを、2026年ⁱⁱにミッション3、2027年ⁱⁱⁱにミッション6の打ち上げを行う予定。ミッション1の目的は、ランダーの設計および技術の検証と、月面輸送サービスと月面データサービスの提供という事業モデルの検証および強化であり、ミッション1マイルストーンの10段階の内Success8まで成功を収めることができ、Success9中においても、着陸シーケンス中のデータも含め月面着陸ミッションを実現する上での貴重なデータやノウハウなどを獲得することに成功。ミッション1で得られたデータやノウハウは、後続するミッション2へフィードバックされる予定。更にミッション3では、より精度を高めた月面輸送サービスの提供によってNASAが行う「アルテミス計画」にも貢献する計画。

■ mu Space and Advance Technology (<https://muspacecorp.com/>)について

タイのバンコクに本社を置くmu Space社は、東南アジアにおける航空宇宙メーカーおよび衛星通信サービスプロバイダーです。2017年にJames Yenbamroong氏によって創業された同社のミッションは、宇宙で代替資源を探し、地球上で減少する天然資源の問題を解決することです。同社は、小型衛星を中心とした衛星プラットフォームを最先端の技術で開発・製造し、高性能衛星のフルサービスや衛星通信への信頼性の高いアクセスなど、エンドツーエンドのサービスを提供しています。大幅なサプライチェーンの追加コストを削減しながら製品とサービスを提供する高度な工場も備えた、垂直統合型航空宇宙企業です。

ⁱ 2023年12月時点の想定

ⁱⁱ 2023年12月時点の想定

ⁱⁱⁱ 2023年12月時点の想定